



鳥取市総合教育センターだより

第4号 令和7年12月10日発行

〒680-0053
鳥取市寺町 150 番地
TEL 0857-36-6060
FAX 0857-26-3878
E-mail
kyo-center@city.tottori.lg.jp

秋を堪能する間もなく、一気に寒くなりました。総合教育センター駐車場の楷の木の葉っぱも、瞬く間に紅葉して散っていききました。

先日、総合教育センターでは、サポートルーム「すなはま」の学習参観が行われました。個々の児童生徒の実態に合わせた学習の様子を見ていただきました。学びの発表会では、ふれあい活動や今まで体験してきた様々な活動の様子を役割演技しながら発表しました。また、活動の様子を振り返るビデオを見て、どの子どもも成長したことを実感しました。参加者の中には思わず涙する方もありました。

国の調査で、令和5(2023)年度の小・中学校の不登校の児童生徒の数は、34万6482人であったことが報道されました。その数は在籍児童生徒の3.7%を占め、11年連続の増加となりました。もはや不登校というのは、決して一部の子どもだけのことでなく、今やどんな子どもにも、どんな家庭にも起こりうることであるといえます。

不登校になったとき、多くの親子は、不登校をネガティブなものと捉え、学校に行けない自分をダメな人間だと思ってしまいがちです。どうして学校に行けないのか？何が悪かったのか？と自分を責めてしまいます。いわゆる、自己肯定感が下がった状態です。

不登校の回復で何よりも大切なことは、心の回復と心の成長です。まずは、しっかりと安心できる居場所で、元気になることが重要です。つまり、しばらくは、辛いことから逃げて、十分に心を休めた方が、しっかり回復するのです。前に進むのは元気な時にすればよいのです。

人一倍敏感で、感受性が強く、誰よりも繊細なあなた。あなたが、「自分はこのままだと傷つく」と判断した場所や出来事からは、逃げて離れたらよいのです。安心できる居場所でじっくり元気になってほしいのです。十分元気になって顔を上げた時に、世の中は違う見え方をするはずですよ。

自分の気持ちに蓋をして、見ないふりや気づかないふりをしても、無かったことにはならないのです。ここなら安心という居心地の良い場所で、自分と向き合い元気な時に一歩ずつ歩くのです。そのためにも、大人は全力で子どもに肯定する言葉のシャワーをかけたいです。「ここにいていいよ」「あなたはあなたのままでいいよ」「そのままの自分でいいよ」「あなたは生きているだけで価値があるから、あなたの価値は変わらないよ」「あなたが今日もいてくれてありがとう」等々。

義務教育段階で教育を十分に受けられずにきた人への支援を打ち出した「教育機会確保法」が平成28(2016)年に成立しました。この法律ができて、学校に行かずに学んだり休んだりすることは、「あつてはならないこと」ではなく、「社会として応援する方向」になりました。学校は、親にとってかけがえのない大切なお子さんを預かっています。身体的な怪我はもとより、心が傷ついたり、人権が侵害されたりしたまままで子どもを下校させることがあつてはなりません。子どもの命は、いかなる都合よりも最優先されるべきです。ただ、学校は様々なことを抱えすぎています。子どもを健全に育成することは、学校だけではできないのです。もはや、学校だけで教育をする時代は終わったと感じます。地域とともに、世の中全体で、「なんだか人っていいなあ」という体験や取組を仕組み続けるしかないのです。人を助けるのは人でしかないのです。学校でも学校以外でも、子どもたちにとって安心な居場所がありますようにと、心から祈っています。



「にぎやかな森のなかまたち」

サポートルーム「すなはま」共同制作



中堅教諭等資質向上研修

鳥取市では、採用11年目を迎える中堅教諭を学校の中核と位置付けて教職員研修を実施しています。今年度、鳥取市の中堅教諭等資質向上研修は、ミドルリーダーとして広い視点から学校運営に積極的に参画する力量がより高まるよう、研修内容を一部変更しました。研修内容は、「校外研修」「企画選択研修」の他、「授業実践」「学校運営参画研修（新）」「実践発表」「指導主事による学校訪問（希望制）」で構成しています。今回は、その中で「企画選択研修」と「学校運営参画研修」について、指導主事の学校訪問で伺った受講者の生の声や学校側の期待を御紹介します。

企画選択研修

この研修は、「保育体験」「地域貢献体験」「指導助言体験」を通し、就学前から地域社会までを視野に入れた連携・協働の意識と、授業を評価・改善する能力を高め、学校運営に主体的に参画できる中核的教員の育成をねらいとしています。

【体験の感想】

- 保育体験で、保育士さんが子どもの発想を何よりも大切にしている姿を目の当たりにし、小学校入学後にその発想を狭めてしまっているのではないかと実感しました。「ルールに乗せる」のではなく、子どもたちを信じて任せる、待つことの重要性を学びました。
- 地域貢献体験で、地域の推進協議会の取組に1年間通して参加し、話し合いにも加わりました。地域の方々から、普段学校では見られない生徒の意外な一面や成長の様子を聞き、生徒たちが地域で「つながり」を意識して活動していることに気付かされました。また、地域の方々が中学生に活躍の場を提供してくださっていることに深く感謝しました。学校代表として、今後も地域との協働体制をさらに充実させていきたいです。

NEW! 学校運営参画研修

この研修は、校務分掌のうち2つについて、具体的な目標設定と実践を通じて、学校運営の中核を担う意識と他者と協働しながら学校運営に参画する能力の向上をねらいとしています。

○中堅教諭の振り返りより

特別支援教育主任を担うことで、学校全体の動きに目を配り、他の教員と協働することを強く意識するようになりました。ミドルリーダーとしての役割を考え、個別の指導計画作成への助言や保護者面談への同席なども行っています。また、特別支援教育以外の面でも、若い先生方の悩みを聞き、共に考える経験は自分自身の成長にも確実に繋がっていると実感しています。

○学校長の話より

本校では、特別支援教育を学校運営の中心に据えたいと考えています。中堅教諭には、ぜひ特別支援の視点で学校全体を見てほしいと考え、主任を任せました。この中堅教諭が自ら考えを発信し、他の職員と積極的に関わりながら学校運営に参画する姿は、周囲に良い刺激を与え、若手の育成にもつながっていると感じています。今後のさらなる活躍に期待しています。

受講者の声（これまでの研修の振り返りより）

- ミドルリーダーであることは認識していましたが、自分が学校のために具体的に何ができるのか、どのような心構えでいるべきかを深く考えることができていませんでした。本研修を通して、日々自己研鑽し、周囲から学び取ろうと努力する姿勢を忘れないようにしたいと感じています。自分に何ができるかだけでなく、学校の実態に合った取組とするために、今後も話し合いを重ね、目の前の子どもに合った実践を積み重ねていきます。
- 研修を通じて、今自分が抱えている課題や考えたいこと、これからどうしたいかを個人で深く考え、周りの人と共有していくことで、新たなアイデアや問いが生まれてくることを実感しました。

令和8年度 教職員研修 企画にあたって

総合教育センターでは、令和8年度の教職員研修を現在、鋭意企画・準備しています。学校規模や人的配置の制約から調整に苦慮されながらも、研修への参加に御尽力いただいている学校が多いことを承知しています。研修が受講者個人の専門性向上に留まらず、学校組織全体の教育力向上へと確実につながるように、研修内容や講師の選定を慎重に進めているところです。その上で、研修の成果を最大限に引き出すのは「受講者の主体性」であると考えます。研修を単なる知識習得や机上の議論に終わらせず、確かな教育実践へ結び付けるためには、「今日の学びを学校でどう活かすか」という受講者一人ひとりの強い目的意識と当事者意識が鍵となります。総合教育センターとしても「学び続ける教師」につながるよう、受講者の主体的な学びを促す研修を一層工夫していきます。



1. はじまり

平成 11(1999)年の中央教育審議会答申において、小学校段階から発達段階に応じて「キャリア教育」を推進することが提言され、その一環として「職場体験等の体験活動を促進することが重要である」と指摘されました。以降全国的にキャリア教育の重要性が認識され始め、多くの中学校で職場体験が導入・推進されました。鳥取市では、平成 15(2003)年度に県の事業から鳥取市独自の事業へと移行し、平成 17(2005)年以降は全ての学校で実施しています。本年度で市の事業として 22 年目となり、本市の特色ある教育活動の 1 つになっています。本市の教育振興計画の基本理念にある「ふるさとを思い 志をもつ人づくり」のもと、キャリア教育の側面と学校・家庭・地域連携の 2 つの側面を目標とし、事業を推進しています。

2. 目的

職場体験は体験活動を通じて地域の人々への感謝の心や自分自身の課題を解決していこうとする意欲、豊かな人間性などを育成することを目的として実施しているものです。

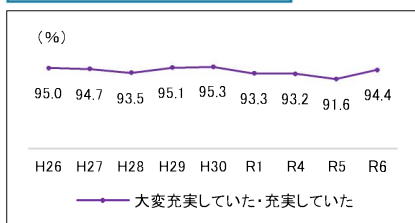
文部科学省は、学校や生徒だけでなく、家庭、保護者、地域、事業所にとっての職場体験の教育的意義を示しています。この取組は学校と社会をつなぐ場であり、親子の会話の促進や地域の活性化が期待できます。



家庭・保護者にとって	地域にとって	事業所にとって
- 働くことを通して家族の会話の促進 - 子どもたちの働く姿から、新たな一面の発見 - 中学校で行っているキャリア教育に対する具体的な理解	- 地域の中学生理解 - 地域が一体となって生徒を育てていこうとする機運の高揚 - 地域への理解促進	- 次代を担う人材育成 - 企業の社会的役割の具体化 - 地域への貢献 - 職場の活性化 - 社員教育の一環 など

「職場体験の教育的意義」— 文部科学省「職場体験の基本的な考え方」より

3. 成果



「あなたにとって、この期間はどんな期間でしたか」
～生徒対象の事後アンケート結果より～



■ 体験後の生徒の感想より

○ お金を得るために仕事はあるのだと思います。だから両親には心から感謝しています。でもこの職場体験で目にしたことは、働くことの別の意味です。私がお世話になった事業の方は、「この仕事がやりたい」「この仕事が好きだ」と言う人ばかりでした。自分の仕事に誇りを持っているようで、キラキラ輝いて見えました。「誰かのため」「好きだから」そんな気持ちで将来仕事をしてみたくくなりました。

○ 私は福祉施設で体験しました。最初は人と接することの難しさに戸惑いました。利用者のことを考えて明るく優しい声かけをされる職員の皆さんに、溢れんばかりの素敵な笑顔を見せる利用者の方を見ていて、「きっと私にもできる」と言う気持ちで最後まで頑張りました。利用者のおばあさんから「ありがとう」と言われた時は胸が熱くなりました。

生徒対象の事後アンケートの「この期間はどんな期間でしたか」という質問に対して、「充実していた」と肯定的回答をした生徒の割合は毎年 90%以上です。また感想には、働くことの大変さややりがい、働く意義について深く考え、自分の人生や生き方について考える機会となったことや体験先や家庭の会話の中で励ましや労いの言葉かけをもらったという生徒の声がたくさんありました。事業を通して生徒の自己肯定感を高めるきっかけとなっていると感じています。

現在、各中学校では生徒の発達段階、地域性、各学校の実態等に合わせて、創意工夫により特色ある体験活動が実施されています。今後も職業人とのふれあいや交流など、家庭や地域と共に事業を推進し、生徒の地域づくりの担い手となる意識を醸成していきたいと思っています。